

北斗会看護専門学校

2022年度 自己評価報告書

2023年2月自己評価実施

2023年3月24日現在

2022 年度 学校評価

基準1 教育理念・目的・育成人材像

2023 年度の新カリキュラムの運営に向けて今年度はカリキュラムプロジェクトチームの会議を進めるとともに運営会議、法人幹部会議、理事会を経て大阪府から承認をいただくことができた。本校は「社会医療法人北斗会の医療憲章を基盤として、看取りの『学・術・道』を教育理念とし、専門職業人としての自己の身体的・精神的・社会的成長をめざして、あらゆることに関心をもち、主体的に考え、行動し、判断できる能力がもてること。また、他者への思いやりのある人間関係が築けること」をめざし、運営にあたることを再確認した。これらについて自己評価は高く、教育理念、目的を目指して教員一人一人が教育に当たっていると考える。

44 回生卒業時アンケートでは「教育目的、教育目標達成に向けた支援」について満足とまあ満足を含めて 95%となっており、学生に浸透していると考え。学べたことの中に「思いやり」や「看護師としての姿勢」とする意見が多かった。本校の教育理念、目的を目指して各科目の学習が行われていることを引き続き意識し、教育にあたりたい。

新カリキュラムの運営に向けて、各科目の授業計画の立案と、ディプロマポリシーの明確化を行うこと、さらに教員全体で情報共有し、より発展させ、教育内容を充実させていきたい。

2022 年度 44 回生の卒業前アンケートでは「本校入学を決めた理由と入学後の満足度」に対して「満足」「まあ満足」合わせて 100%であり、新型コロナウイルス感染症に伴う制限された学習環境の中であったが、学生は意欲的に学び取ろうとしていた。次年度も引き続き、教育目的・目標を目指した取り組み、授業を展開できるように努めたい。

また、学校の将来構想として中期的計画「定員 40 名を満した魅力ある学校づくり」をあげ、数値目標や対策を計画にするなど、教職員全体で運営に取り組んでいる。次年度は 5 か年計画の 5 年目となる。5 年間を評価し、今後の展望の足がかりとなるよう、教職員全体で取り組み、課題を明確にしたい。

基準2 学校運営

2022 年度は中期的計画「定員 40 名を満した魅力ある学校づくり」の 4 年目。「国家試験合格率 100%」「受験者数 倍率 1.3 倍以上」「大阪府への就職率 80%以上」「希望者就職 100%」を数値目標として取り組んだ。結果、2021 年度第 111 回看護師国家試験では全国平均合格率 91.3%本校合格率 97.3%。全国平均以上の合格率であった。2022 年度「受験者倍率 1.7 倍」「大阪府への就職 85.7%」「希望者就職 100%」。准看護師課程の学校が閉校する中で

数値目標以上の学生確保と卒業後の就職に向けた準備を整えることができた。

2021年度に引き続き、2022年度においても新型コロナウイルス感染症の影響は、実習の制限、行事の縮小に表れている。日本看護学校協議会が行ったアンケート調査の「臨地実習が予定通り行えなかったことが学生の看護実践の基礎能力にどう影響しているかについて例年と比較」では「対象を理解する能力」「人間関係を形成するコミュニケーション能力」「状況の変化に気づき対処する能力」「適切に報告・連絡・相談する能力」が低下したとする学校の割合が非常に高いことが報告されている。しかし、今年度1年目の新人看護師として働く、多くの学生が就職したさわ病院では「例年と変わらない」とご意見を聞くことができた。意図的な教育、交流、関係性の構築を行うことで本来持つ学生の強みを発揮できるものと考え、今後も感染防止対策とともに学習の機会の確保、学生交流の場を作る、学校行事の再開など学びを充実させるための環境を整えていきたい。

これらの方針、計画については会議を行い、目標や組織、構造図を提示することで教職員に周知し、評価、修正を行っている。また、同法人の学会で、新型コロナウイルス感染症がもたらした3年間の学校運営について報告し、学校を知ってもらう機会を得た。今後も教職員のみならず、様々な機関、地域に向けて学校を知ってもらう機会を大切にしていきたい。

「情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っている」については、学生に関するシステムは様々な情報が一元化されてはいない。ICTが進む中、将来的に必要となるかもしれない。状況に応じて今後検討していきたい。今年度カリキュラム申請に伴い、学則、規定、を見直し、整理した。

基準3 教育活動

教育方法についてはすべての項目で高い評価である。様々な場面で教員同士の意見交換や、授業内容の創意工夫、シラバスの検討を行っている。各教員は学生の授業感想・評価として「大福帳」の記載を確認し、授業の振り返りを行っている。

「教員の資質の向上への取り組みを行っているか」については他に比べて低い。次年度は研修や講演会など自己研鑽できる機会を確保し、専門性の向上、資質向上に向けて取り組めるようにしたい。そのためにも教職員の定数の確保とより一層の教員間の授業計画・評価に向けた意見交換や連携を強化する。

前年2021年度の看護師国家試験不合格者については担当教員により、卒後も模擬試験の受験など学習支援を継続した。学生の卒業前アンケートや面接からは2022年度は授業内容について「満足」「ほぼ満足」が95%、学習会については95%、国家試験対策について95%と高い。ねらいを持った学習活動が行えていると思われる。

基準4 学 修 成 果

就職試験は、前年度12月に行われる病院もあり、年々早くなっている。そのため、キャリアガイダンスの開催を、44回生は1回目を1年次12月に行い、2回目は3月に行なった。学生のニーズは高く、就職活動に向けて真剣に準備を進めている。個別に相談がある学生には個別に対応している。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実習が制限されている現状の中で、実習を行った病院に魅力を感じ、就職したいと感じる学生も増えてきた。実習は実際に看護が行われている臨床現場であり、目にする看護師の姿に憧れ、ビジョンを持って学習に臨むための貴重な体験である。可能な限り、臨地実習が行え、学生の成長の機会となるよう支援したい。

看護師国家試験の合格率は100%を目指している。第112回看護師国家試験は44回生42名と、前年度不合格者1名が受験し、全員合格することができた。

学習に向けた取り組みとしては、入学前課題への取り組み、入学前ガイダンスでの学習の重要性と学習の仕方の説明、入学後すぐの1年次から学習支援、国家試験対策など行っている。専修学校である本校は常に100%となるよう学習支援をおこなうことが求められる。出題の傾向を分析し、学生の状況や特性に応じた学習支援を行っていく必要がある。次年度はキャリアスタディープロジェクトチーム（キャリスタチーム）を立ち上げ、学習計画の立案、支援を強化する。

「卒業生の実態を調査等で把握しているか」については行えていない。新型コロナウイルス感染症が影響してか、各病院施設ではここ数年、就職後早い時期の退職者が増え「第2新卒」と呼ばれている。卒業生の就職後の不安を軽減させ、定着率を安定させることは本校学生の就職の門を広げることにつながる。卒後の状況把握を検討していきたい。

基準5 学 生 支 援

2022年度の希望者就職は100%、大阪府下の就職85.7%と目標数値を維持できている。また、学生から就職活動の意向があった場合、書類の作成とともに「就職活動願い」を提出させ、就職活動に対しての責任感を持たせると共に、教員間の学生の就職活動の情報共有を図っている。学生は就職情報の掲示物やパンフレットを情報の一つとして活用している。就職情報の提示や個別の支援が必要な学生については面接での対応やレポートの確認、希望する病院施設への紹介や情報提供など支援している。

ここ数年、就職した病院からの学校訪問が増えた。病院側の看護師確保の動きが高まっていると感じる。しかし、大規模病院、国公立病院にみられる年齢制限を考えると本校の学生が就職できる病院施設が限られてくる。学生の希望と就職先の病院施設とどのようにマッチングさせていくか、双方の情報を共有し、就職に関する相談に応じられるよう努めたい。次年度新設される「キャリアマネジメント」では看護専門職としての意味付けとビジョンを

もって学習や就職活動に臨めるよう支援するとともに「キャリアデザインサポート（キャリアサポ）」を相談窓口として支援にあたる。

2022年度の退学者はいなかった。目標数値としては退学者0、留年者0を目指している。学校生活を送る中で不安を示す学生についてはカウンセラーの役割を果たす法人内の臨床心理士へ相談ができるように案内している。学校外部のスクールカウンセラーの位置づけで、必要時は学校と連携し、学生支援にあたっている。本年度も数名の学生がサポートを受け、安心感を得て学校生活に向かっている。

昨年度から高等教育修学支援新制度の対象校の指定を受け、経済的支援の選択肢が増え、支援を受けられた学生もいる。卒業前アンケートの「奨学金などの経済的支援」では支援を受けていないためわからないとする学生を除くと97%の学生が満足またはまあ満足であり、経済的支援についての満足度が高く「個人の事情に合わせて手続きしてくれたので心強かった」という意見があがっている。本校学生は親としての役割を持ちながら学ぶ学生が多いため、経済的支援が必要な学生には、今後も支援が行き届くよう体制を整えていきたい。

ここ数年、同窓会はコロナの影響により開催を見合わせている。活動内容については卒業時にインフォメーションしており、本校ホームページでもお知らせのコーナーを設けており、活動内容の確認ができる。

基準6 教育環境

昨年同様、今年度も感染対策として、環境を整備し、法人感染対策本部等と連携し感染防止にあたった。学内での感染の広がりを見せることはなく、学習や実習施設の不安を広げることはなかった。専門職としての感染対策の意義について教育すると共に施設整備を充実させる対策は十分に行った。今後国が打ち出す対策と法人や医療機関として必要となる対策を見合わせながら、学校としての感染対策を計画したい。感染対策を身につけることと、社会生活との折り合い、学びが制限されない環境づくりと合わせて考えたい。なかでも、思いやりと感性を育む教育として大切にしてきた学校行事が、3年に渡り縮小、中止された。次年度はできる限り例年と同様に近づけられるよう努力したい。

施設、設備等については、図書室、実習室などの整備の評価が低い。書籍については定められた8000冊以上の8529冊が準備されているが、不十分との意見もあることから、希望図書のアンケートをとり充実させたい。それと同時に図書の整理、紛失の防止など図書管理を適切に行いたい。

昨年度の学生のアンケートからは「トイレの様式化」「椅子と机の不良」「実習用ベッドの高さの調整ができない」「図書の充実」など設備、物品の要望があった。学校関係者評価委員会の報告から法人への働きかけを行い、各階に洋式トイレの設置が予定されることとなった。今年度のアンケートでは「トイレの整備」「図書の蔵書の整理」が多かった。

昨年度から各学校に対して学生への「倫理的配慮」が義務化された。学生に様々な障害や

事情があったとしても学校はその意向や希望に沿える配慮をしなければならない。現在トイレの様式化に向けた準備途中である。早急に設置されることを望む。

実習用ベッドについては、さわ病院のベッドの入れ替えに合わせて本校でも低床用ベッドに変更された。また、学生からの要望では駐輪場の屋根の取り付けと大型バイクの駐輪のしづらさへの対応が多い。法人に報告し、大型バイクの駐輪場のスペースの確保のために隣にある法人の駐車場の整備をしてもらえる運びとなった。また、駐輪場の屋根については本来設置されていた屋根が大型台風により破損されたままとなっているため、法人へ働きかけをしたい。

基準7 学生の募集と受入れ

「学生の募集と受入れ」については新型コロナウイルスの影響により、例年実施している遠方への訪問はできなかった。しかし、3月には大阪府下、京都、奈良の准看護学校、衛生看護科へ訪問した。新たに今年度の取り組みとして、卒業生が就職した二つの病院を訪問した。卒業生の様子を聞いたことに加え、学校の様子を伝えることで、看護師資格を取得したいと考えている准看護師への働きかけをお願いすることができた。学校関係者委員会からも継続した訪問が期待されたことから、引き続き病院への訪問を継続したい。

また、今年度は、初めての准看護学校からの受験者が6名と多かった。今までは身近な人からの口こみを頼りにすることが多かったが、募集要項やホームページを見て受験を考えたとする意見がみられ、ホームページやSNSの効果があったのではないかと推測する。今後、受験があった学校への訪問を行い、学校を知っていただくことや今後の受験者の増加に向けて働きかけをしたい。

今年度の受験生は68名、合格者40名、うち辞退者1名。受験者倍率1.7倍。2023年度は46回生40名が入学の予定である。オープンキャンパスの参加者も前年度より増加した。オープンキャンパスでは在校生との交流が好評であり、在学生の学ぶ意欲や日ごろの学校生活と愛校心に触れることで、本校への入学動機を高められると考えている。また、「丁寧に学校の様子や授業のことなど説明を受けてわかりやすかった」という意見もあり、できる限り学校の様子が伝えられるよう今後も在校生、卒業生の力を借りて、学生募集に取り組みたい。次年度の新カリキュラムに合わせて、学校のパンフレットもリニューアルし、学校の魅力を伝えられるようにしたい。

准看護学校閉校、課程変更が進み、2年課程へ進学する学生が減少している中で、どのように学生を確保するか課題である。しかし、受験生は全国の2年課程の学校を探して受験している現状である。准看護学校からの要望として、准看護師となった学生のその後の進路の幅を広げられるためにも本校の存在価値は大きく存続を期待しているという声を聞いている。社会の期待に応えられる努力を続けたいと考えている。

基準8 法令等の遵守

法令関係については本校規定があり、この規定にのっとり対応できるようにしている。対応が必要となった事例がある場合は、法人と連携し、対応にあたる体制がある。

学校評価については、自己評価に加え、学校関係者評価委員会を立ち上げている。外部からの評価を受けることで貴重なご意見を頂き、学校運営改善に取り組む機会となっている。また、学校を知ってもらえる機会としては大変貴重な機会である。自己評価、学校関係者評価の結果についてはホームページに記載し、社会に公表している。これにより入学希望者が学校の運営を知り、受験志望に結びつくことにも役立てたい。

基準9 社会貢献・地域貢献

学校施設利用について、新型コロナウイルス感染対策を講じながら、法人職員の研修などに利用されている。卒業生からの希望があれば、実習室、講堂、教室など利用されている。今後も希望があれば外部機関や地域の方々に対して学校施設の利用を進めたい。

【改善策】

1. 次年度は新カリキュラムと旧カリキュラムで運営されることとなる。授業計画の発展に向けて体制を整える。旧カリキュラムと新カリキュラムの運営担当マネージャーを置き、それぞれに運営を行う。また、ティール組織となるよう各チームで目標をあげ、教職員全体で共有し、学校運営を活性化させていく。教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上を期待し、学生の基礎学力の向上に向けて取り組みたい。2023年度重点目標「全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場～看護専門職としての学生一人一人を大切にした教育～」を挙げて取り組む。
2. 新型コロナウイルス感染症により、思いやりと感性を育む教育として大切にしてきた学校行事が、3年に渡り縮小、中止されてきた。次年度はできる限り中止されていた学校行事を再開する。
3. 2023年度は中期目標5か年計画の5年目となる。「定員40名を満たした魅力ある学校づくり」の目標は達成したものの、准看護学校の閉校や2年課程の閉校は続き、全国的な学生充足率の低下が進んでいる中、教育の質の確保とともに、学生数を確保することは課題である。数値目標として、より積極的な働きかけが必要と考える。
 - 1) 受験者倍率1.5倍を目指し、学校の魅力をより多くの人に伝える取り組みの継続
 - ・新たなパンフレットの作成
 - ・HPを有効活用ーリモートオープンキャンパス、学校生活のUP
 - ・大阪府看護学校協議会の学校PR動画への参加
 - ・様々な学校紹介への参加
 - 2) 学校訪問の拡充
 - ・法人と協力し学生及び将来病院職員となる奨学生のアナウンスの機会を増やす
 - ・入学生の出身校への訪問
 - ・学生の様子を伝える機会を増やす
4. キャリア教育の充実
 - 1) 希望者就職100%
 - 2) 大阪府内の就職率80%
 - 3) キャリアガイダンスの充実とキャリアデザインサポート（キャリサポ）の充実